

施策項目 29 芸術文化活動の推進

【評価結果】 【担当課：文化財・博物館課（教職員課、社会教育課）】



担当課HP

総合評価	計画どおり
-------------	--------------

定量評価 [指標]	A
-----------	---

指標	評点	(a)	(b)	(c)	(d)
	評価数	1	0	0	0
	d 評価となった指標				

定性評価 [施策]	進展あり
-----------	------

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響によって、各道立美術館・博物館の利用者数にも影響が及んでいるが、地域等に関わらず誰もが芸術文化に触れる機会の充実や、地域文化の振興や魅力発信のため、道立美術館等の展覧会事業やコレクション等を動画で紹介する「北海道リモート・ミュージアム」をはじめとしたデジタルコンテンツの充実を図るとともに、ICTを活用した「道立美術館オンラインアート教室」を行うなど、施策を推進した。

【施策の推進状況】

【P】・・・「Plan 令和4年度の主な施策」 【D】・・・「Do 主な取組の状況」
 【C】・・・「Check 施策の課題」 【A】・・・「Action 今後の方向」

《課題・背景》	<p>(1) 芸術文化に接する機会の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校、地域によって美術館の利用が困難 ・地域等に関わらず、誰もが芸術文化に触れる機会の提供が必要 <p>(2) 美術館等を核とする地域文化の振興や魅力発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北海道の美術館等がネットワークでつながり双方向でアートを紹介・発信するとともに、若手作家等の活動の場や発表機会の提供など美術館の機能を充実させることで、北海道全体がアートの舞台となることを目指す「アートギャラリー北海道」について、事業周知のための効果的な広報や利用促進のためのインバウンド対策などが必要
----------------	---

(1) 芸術文化に接する機会の充実	
【P】	<p>①美術館の収蔵品等を活用した鑑賞機会提供等</p> <p>②魅力ある展覧会の開催</p> <p>③芸術文化に触れる機会の提供</p> <p>④文化部活動指導体制の充実</p>
↓	↓
【A】	<p>①・道立美術館での継続的な作品収集（美術品購入寄付制度の導入を検討）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市町村と連携した鑑賞機会の提供 ・学校を対象にICT技術を活用したオンラインによる出前授業の実施 <p>②・魅力ある展覧会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「北海道リモート・ミュージアム」による動画コンテンツ等の情報発信の強化 <p>③・「北海道リモート・ミュージアム（再掲）」や「道立美術館オンラインアート教室」の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たな芸術団体の情報を発掘するなど、市町村の積極的な活用を促す公演リストの作成・配布を引き続き実施 <p>④部活動指導員配置に係る予算の全額国費措置を国に要望</p>
↑	↑
【D】	<p>①・道立美術館の収蔵品を活用し、市町村の施設等で展覧会を行う「移動美術館」の実施（1町）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学芸員が学校に作品を持参し、鑑賞の手ほどきを行う「出張アート教室」を実施（小1校） ・道立美術館と学校をオンラインで繋ぐ「道立美術館オンラインアート教室」を実施（小5校、中3校、高2校、特支4校） ・鑑賞学習支援ツール（学校貸出用美術鑑賞教材）の貸出 <p>②道立美術館・博物館におけるコレクション展、特別展の開催（5美術館、3博物館）</p> <p>③・北海道巡回小劇場公演リストの作成・配布</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道立美術館等の展覧会やコレクション等を紹介する動画を配信する「北海道リモート・ミュージアム」を実施（動画13本） <p>④部活動指導員を道立学校の文化部活動に配置するとともに、市町村立中学校への配置を支援（道立学校158人、中学校6人）</p>
↑	↑
【C】	<p>①・青少年の豊かな創造性や情操を育むことを目指し、多くの学校等で芸術に触れる機会を提供するために、より効果的な事業展開と広報が必要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美術館を身近に感じて応援してもらう取組が必要 <p>②・より多くの道民の利用が図られるよう、道内外の美術館のコレクションを生かした魅力的な事業の検討が必要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美術館に興味がない人に興味をもってもらえるように、美術館に関心を持つきっかけが必要 <p>③住んでいる地域に関わらず、芸術文化に触れる機会を提供する工夫が必要</p> <p>④部活動指導員の配置が申請に対応しきれておらず、予算の確保が必要</p>
(2) 美術館等を核とする地域文化の振興や魅力発信	
【P】	<p>①道内美術館等との連携や若手作家を紹介するアートギャラリー北海道（AGH）企画展の開催</p> <p>②教育普及事業「みんなのアートプロジェクト」の実施</p> <p>③利用促進に向けた対応</p>
↓	↓
【A】	<p>①・②・③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道立美術館とアートギャラリー北海道（AGH）のWebサイトの連動や、包括連携協定締結企業との連携による情報発信 ・「教育ほっかいどう家庭版ほっとネット」、「アートギャラリー北海道（AGH）パネル展」に加え、環境生活部との連携により、「北海道デジタルミュージアム」による情報発信強化を実施 ・キャンパス・パートナーシップ制度や利用料金の見直しによる利用者の利便性の向上を検討
↑	↑
【D】	<p>①全道で開催（道立6館9展、連携館12館13展）</p> <p>②展覧会に係るワークショップ、講演会及びスタンプラリー等に助成金を活用（道立6館7事業）</p> <p>③・専用Webサイトによるアートギャラリー北海道（AGH）情報の随時発信（施設情報、展覧会・イベント情報等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道内の博物館等の収蔵作品や施設の魅力を紹介するWebサイト「北海道デジタルミュージアム」による情報発信強化
↑	↑
【C】	<p>①・②・③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の文化を担う人材の育成に取り組むためには、継続した事業やアートギャラリー北海道（AGH）連携館と更なる連携の強化や、包括連携協定締結企業との連携が必要 ・より多くの道民が芸術鑑賞等の文化に触れる機会を提供し、事業の充実と周知を図るため、今までの方策に加え、包括連携協定締結企業と連携するなど効果的な広報が必要 ・若者をはじめ、多くの道民が美術館を利用しやすくなるよう制度の見直しが必要

[指標の状況及び評価]

指標の内容	基準値	目標値（上段）						進捗率	評価	出典 (調査名等)	実施主体	調査期 日又は 調査対 象期間	指標の 対象
		実績値（下段）											
		(H29)	(H30)	(R元)	(R2)	(R3)	(R4)						
① 1年間の道立美術館等の展覧会や教育普及事業などの利用者数（人）	(H28)		728,000	746,000	764,000	764,000	800,000	102.7%	a	各美術館等の 事業実績報告 書から集計	道教委	各年4月 ～3月	道立美術 館利用者
	710,385	984,576	960,347	816,926	337,456	434,335	821,753						
評価結果	(a) 指標数	(b) 指標数	(c) 指標数	(d) 指標数	定量評価	A							
	1	0	0	0									
新型コロナ感染症の影響により実績値が伸び なかった指標又は低下した指標に対する今後 の取組													
d評価に対する今後の取組													